



飯田市 歴研ニュース

News Letter

No. **46**The Iida City Institute
of Historical Research

飯田市歴史研究所

〒395-0002

長野県飯田市上郷飯沼3145

TEL 0265-53-4670

FAX 0265-21-1173

E-mail iih@city.iida.nagano.jp



第3回歴史学オリエンテーションを開催します



東京大学日本史学研究室の学生が
研究所で行った古文書調査実習

今年も歴史研究所では、高校生をおもな対象とした歴史学オリエンテーションを開催します。

「日本史や世界史の教科書で学んでいる歴史は、自分の住んでいる地域とどんな関係があるのだろうか？」

「歴史の本や教科書を書いているのはどんな人たちなのだろうか？」

「古文書を間近で見てみたいなあ」

「将来、専門的に歴史を学びたい！」

こんな疑問や興味をもっている方、オリエンテーションでは飯田下伊那地域をフィールドに研究している研究員と大学教員がお答えします。ぜひ歴史研究所へおいでください！

◆私が建築史を研究するまで（金澤雄記研究員）

建築史を学び始めるきっかけや、大学での研究生活、研究員となってからを語ります。

◆ミニ講義 多和田雅保（横浜国立大学准教授・調査研究員）

飯田下伊那地域をフィールドに研究する元歴史研究所研究員の多和田さんが、大学の講義形式で近世の町と村についてお話しします。

◆研究所の紹介・Q & Aコーナー

現在研究所で保管・調査中の古文書を実際に目にしながら、研究所でどんな調査や研究をしているのかを説明します。また、大学に入ってから歴史を学ぶプロセス、地域の歴史の調べ方など、具体的な質問にもお答えします。

日 時 7月24日（土）
受 付 13時30分
（13時から研究所見学可能です）
開 会 14時（17時終了予定）
会 場 歴史研究所 研修室

飯田アカデミア

第57講座

「近世パリに生きる」

6月19日（土）13:30～17:00

6月20日（日）10:00～14:30

講師 高澤 紀恵さん

（国際基督教大学教養学部教授）

場所 りんご庁舎

16世紀以降、ヨーロッパでは主権国家の形成が進みますが、フランスではそのプロセスは絶対王政というかたちを取ります。では、王権が絶対性を主張するとは、何を意味するのでしょうか。この時代を生きる一般の人々にはどのような変化がもたらされるのでしょうか。どのような葛藤や軋轢が生まれたのでしょうか。逆に、日常のどのような変化が王権の強化を可能にしたのでしょうか。本講義は、王国の首都、パリをフィールドに、こうした問いを考えようとする試みです。

16世紀から18世紀初頭にかけてのパリの人口増加と空間的变化を縦軸におきつつ、ゴミ処理や道路の清掃、都市の安全維持のための諸措置、祝祭など、都市民に広く関わる具体的テーマに即して議論を進めます。都市内部のミクロ社会である教区や街区で都市民が共有してきた了解と慣行に降り立ち、「都市で生きる」人々の視点から、都市と王権の関係の変化を追ってみましょう。

第58講座

「関東大震災」

7月 3日（土）13:30～17:00

7月 4日（日）10:00～14:30

講師 鈴木 淳さん

（東京大学大学院准教授）

場所 上郷考古博物館

1923年の関東大震災は、10万人を超える犠牲者を生じた近代日本が経験した最も人的被害が大きい自然災害でした。災害の歴史研究には、当時の社会を知る手がかりを得ること、これからの災害に立ち向かう上での教訓を得ることの二つの意味があります。87年が経過し、町並みや社会体制もすっかり変わり、当時を知る人がほとんどいなくなった現在、関東大震災もこの二つの課題を意識的に区別しながら検証すべき時期を迎えています。具体的には以下の内容をお話します。3日には、先ず関東大震災の現在でも注目すべき特色である被災範囲の広さと多様さです。第二に、地震発生直後に虐殺ともいうべき多くの殺傷事件が生じたのも類例がありませんが、これがどうして起こり、またその後事件の内容がどのように明らかにされてきたかです。4日には、場所をしぼって災害の状況と人々の対応を検討します。第一に、焼失地域のなかで延焼を免れた神田和泉町・佐久間町の奇跡がどうして生じたのか。第二に、最大の死者を生じた両国の被服廠跡の悲劇はどうして生じ、その後の救護活動はどのような問題をかかえていたのかといったことです。今と条件が違う、ということではなく大正という時代に起こった事として震災をとらえ、何が起こったか冷静に検証し、その上で、どのような現在に通じる教訓を得られるのか、一緒に考えて行きたいと思えます。

りんご庁舎3階会議室（飯田市本町1丁目15番地 飯田市地域交流センター） 上郷考古博物館1階会議室（飯田市上郷別府2428-1）

受講料 1講座 500円（資料代）

申込み 電話、ファクシミリまたはEメールで、飯田市歴史研究所へお申込みください。

ながの電子申請サービス（http://shinsei-e-nagano.lg.jp）でもお申込みできます。

2010年度 研究計画をご紹介します

I 基礎共同研究	1 基盤調査		
	1-A	下伊那地域における近世・近現代史料の所在状況に関する悉皆的研究	竹ノ内雅人
	1-B	聞き取りによる史料調査	池田勇太
	1-C	下伊那地域における近世・近現代史料の拠点型・現状記録調査および採集調査	竹ノ内雅人
	1-D	飯田・下伊那地域における歴史的建造物の所在状況および現状に関する悉皆的調査研究	伊藤毅・金澤雄記
	1-E	アーカイブズ、とくに行政非現用文書の保存・活用	池田勇太
	1-F	他地域に伝来する飯田・下伊那関係歴史資料の調査・研究	吉田伸之
	2 課題研究		
	2-A	学校所蔵史料の悉皆的調査および研究方法について	多和田真理子
	2-B	下伊那の戦時体制資料調査	池田勇太
	2-C	伊那郡における千村氏預所の地域社会構造と支配に関する総合的研究	吉田伸之
	2-D	戦後期及び1960年代における飯田・下伊那の社会経済に関する総合的研究	本島和人
	2-E	満州移民を送出した飯田・下伊那の地域社会の分析	本島和人
	2-F	飯田城下町の空間復元的研究	吉田伸之
	3 単位地域プロジェクト		
3-A	飯田・上飯田	多和田雅保	
3-B	座光寺	多和田真理子	
3-C	南信濃	池田勇太	
3-D	清内路	吉田伸之	
3-E	部奈	吉田ゆり子	
II 基礎研究	<顧問研究員>		
		飯田城下町の社会＝空間構造に関する基礎的研究 1	吉田伸之
		下伊那地方在郷軍人会に関する史料調査と研究	上山和雄
		1930年代の森本州平日記を読む	加藤陽子
		古代シナノの宮号舎人氏族の研究－金刺舎人氏・他田舎人氏・久米舎人氏－	田島公
		飯田・下伊那の教育・人間形成についての教育社会史的研究	田嶋一
		5世紀における渡来人の研究	土生田純之
		飯田・下伊那地域の戦後開拓	森武鷹
		下伊那地域における諸身分集団の複層構造に関する研究	吉田ゆり子
		兵農分離と地域社会の変容	吉田ゆり子
	<研究員>		
		近代成立期における社会変革の研究	池田勇太
		飯田・下伊那地域における本棟造の悉皆的調査研究	金澤雄記
		飯田旧市街地の建造物と町並みの調査研究	金澤雄記
		飯田・下伊那地域の寺社と地域社会に関する基礎的研究	竹ノ内雅人
	<調査研究員>		
		移民送出と外国人労働者、飯田・下伊那地域からの海外移民と人口移動	本島和人
		分村移民の構成と送出過程、上久堅村と川路村	本島和人
		近代養蚕業地域の社会経済史	田中雅孝
		17世紀の上飯田村における土地所有と年貢制度	多和田雅保
		明治期座光寺村における小学校運営	多和田真理子
	<調査研究補助員>		
		20世紀の日本農村における「共同関係」の特質－飯田・下伊那地域の事例から－	坂口正彦
		伊那自由大学再考	清水迪夫
	<客員研究員>		
	下伊那と満州移民	齊藤俊江	
	近代飯田遊廓の娼妓の生活	齊藤俊江	

歴史研究活動を助成します

2010年度申請研究募集

▼応募資格

- (1) 飯田市内又は下伊那郡内に住所を有する団体
- (2) 大学の卒業論文又は修士論文を作成するための研究を行う者

▼研究期間

平成23年2月まで

▼助成の条件

- (1) 飯田・下伊那地域の素材を用いたオリジナルな歴史研究の成果であること。
- (2) 新たに得た史料所在情報については、研究所に提供すること。
- (3) 研究成果の口頭による発表を所定の時期に研究所で行い、併せて研究所の刊行物を通じて公表することを原則とすること（やむを得ない理由から、他の刊行物を通じてその研究成果を公表する場合には、飯田市の研究活動の助成による研究成果である旨明記すること）。

▼助成金額

- (1) 団体および卒業論文について、10万円以内
- (2) 修士論文について、15万円以内

▼申請手続

- (1) 提出書類 研究計画書
- (2) 提出期限 平成22年7月17日（土）

▼審査方法

歴史研究所研究部が行う。

▼研究論文等の提出

提出期限 平成23年2月26日（土）

▼助成金の交付

助成金の交付は、助成の条件等に関して必要な審査を行い、交付することが適当と認められたものについて、平成23年4月までに行う。

◎その他 歴史研究所のホームページをご覧ください。 電話 0265-53-4670

文字のデザインと私との出会い

林 武史 (市民研究員/市内山本)

レタリングや[※]タイポグラフィ、文字の歴史とデザインについて、学び始めてから45年を経過しています。

今から思うと大学で学び始めた頃は、レタリングの課題に追われ苦痛を感じながら、一字一字をデッサンして墨入れをして完成させた思い出が、昨日のこのように甦ってきます。その当時は、特に文字の歴史やデザインについて興味があったわけでもなく、ただ義務感だけで仕方なく(?)文字デザインをやっていたように思います。印刷の企画やデザインを長年にわたって経験する過程で、少しずつ漢字の歴史や文字の美しさ、バランスなどへの関心が高まっていく自分の姿がありました。

折しも、飯田市歴史研究所の「市民研究員募集」を見て、飯田の街のデザイン文字を文化・歴史や生活・産業(商工業)などと結びつけて、文字の成り立ちや文字の文化についての調査・研究してみようとの思いから、応募、そして採用となりました。



日頃、身の周りの文字、看板やデザイン文字への興味が増していた時期に、ちょうど、

- ◇『書の風景 善光寺表参道』和広出版
- ◇『街角のデザイン文字』東京堂出版
- ◇『実用和風POP』マール社
- ◇『タイポグラフィの変遷とデザイン』グラフィック社
- ◇『特別展; [※]原弘』飯田市美術館

などの本を手にしなが、城下町飯田の文化と歴史と文字文化の有様を見つめ直してみようと考えていました。

文字一つ一つには、それぞれの歴史があり、文字のもつ表情、デザインの特徴があります。街角に掲げられたり、ひっそりと路傍に立つ道標、神社仏閣の結界や信仰を表す文字、祭りの[※]晴れと[※]藝の文字、祈りの文字、商家・老舗などの文字・看板・のれんなど…

今、街並みや景観の中に溶け合っている「文字たち」が、どのように生き続け、街づくりや景観の中に位置づけられていくかが、私の研究テーマであると思っています。

また、今ある街の「文字たち」の有様を画像や文字として記録し、古き良きものと、新しく街の中で氾濫している看板文字たちと争う様を見直していくことも、景観や街づくりのうえで必要なことと思います。

街に出て、調査・研究を進める際には、市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

※タイポグラフィ

文字デザイン用語。文字の大きさ、太さの関連性、序列、カラー写真などの要素により、明快な表現を得る伝達手段。

※原弘 (1903年6月22日~1986年3月26日) 飯田市・発光堂印刷出身。

昭和の日本を代表するグラフィックデザイナーの一人。パッケージ、ポスター、装幀、タイポグラフィなどで活躍。

※晴れと藝

民俗学や文化人類学において「ハレとケ」という場合、「晴れ」は儀礼や祭、年中行事などの「非日常」、「藝」は普段の生活である「日常」を表している。

リレーエッセイ

学び続ける半世紀

齊藤 俊江 (客員研究員/市内下久堅)

12年間の歴史研究所常勤調査研究補助員を退き、4月から肩の荷が軽くなった気がしています。そこで我が家の庭に咲き誇っているピンクのサツキツツジを眺めながら振り返っています。

飯田図書館から市誌編さん室・歴史研究所への仕事の転換は表面は同じように見えても、市民から与えられた任務は逆でした。図書館時代は、赤ちゃんからお年寄りまでの知的要求に答えるため資料提供をいかに有効にするのか、日夜格闘の日々でした。その結果自分が多くの研鑽を積み重ねなければならず結果的には、「市民に育てられた人間」となったのでした。

しかし歴史研究所では直接市民の顔は見え、市民が生きてきた歴史の中から未来の市民のために歴史的事実をまとめていくという任務が与えられています。歴史的事実とは何か、これが課題となりました。

そこで、私は虐げられてきた人々の周辺を明らかにし、歴史的事実としてまとめていこうと思い、とりかかったのが満州移民・遊廓の娼妓の研究です。この研究は文献史料では見つからなかったり、あるいは事実を歪曲された史料さえあります。今は遺稿・聞き取りなど重層的に調査し次世代市民のためにまとめていこうと進めています。



定例研究会

研究活動促進のため、定期的に公開研究会を開催しています。

6月26日(土)「飯田・下伊那の本棟造2」
講師：金澤雄記(研究員)

場所：歴史研究所2階研修室 時間：午後2時～4時

歴研日誌

4月

- 1日 歴研ニュース45号発行
- 6日 近世史ゼミ「町内による財産処理」
- 8日 近現代史ゼミ「胡桃沢日記と南信新聞」
- 11日 阿南町9条の会
「下伊那から満州へ—阿南町を中心に—」
—齊藤俊江客員研究員
- 13日 名古屋古文書研究会来所
- 13日 建築史ゼミ「復元と再建」
- 14日 関西大学文学部視察受け入れ
- 16日 胡桃沢日記借用
- 19日 平成22年非現用文書データ受け取り
- 20日 近世史ゼミ「飯田万年記1」
- 21日 思想史ゼミ「戦後思想の行方」
- 22日 北沢家文書調査
- 22日 近現代史ゼミ「文献講読『昭和の記憶を掘り起こす』中村政則著」
- 24日 定例研究会
「明治期清内路村のたばこ生産」
—竹ノ内雅人研究員
- 24日 小野歩実氏研究助成報告会
- 25日 川路まちづくり委員会
戦没者等慰霊祭講演
「満州開拓と川路分村」
—本島和人調査研究員
- 25日 豊橋からの視察
「下伊那と満州移民」
—齊藤俊江客員研究員
(川本喜八郎人形美術館)
- 26日 「飯田・上飯田の歴史」編集会議
(東京大学)

5月

- 10日 「飯田・上飯田の歴史」上巻編集会議
(東京大学)
- 11日 建築史ゼミ「舞台」
- 13日 近現代史ゼミ「文献講読『昭和の記憶を掘り起こす』中村政則著」
- 17日 聞き取り調査—森武蔵顧問研究員
- 18日 近世史ゼミ
「飯田万年記 御町地子米始り覚」
- 19日 思想史ゼミ「坂口安吾『墮落論』」
- 22日 定例研究会
「川路村分村の送出過程と家族構成」
—本島和人調査研究員
- 22日 信州大学美甘ゼミ生来所
- 22日 日本民俗建築学会
—金澤雄記研究員(北海道大学)
- 23日 歴史学研究会—池田勇太研究員
- 27日 近現代史ゼミ「胡桃沢日記と南信新聞」
- 29日 地域史講座
「明治初年の藩政改革」—池田勇太研究員
(りんご庁舎3階会議室)
- 継続調査 部奈一朗氏所蔵文書、松澤卓治氏所蔵文書、上松家所蔵文書、小林八十吉氏文書、飯田市公民館非現用文書、鎮西徹氏所蔵文書、伊豆木代田家史料、阿智村伍和木下家襖下張り文書、下清内路小栗家襖文書、中原謹司氏史料、岡島旭家所蔵文書、今村八束氏所蔵文書、本多広文氏所蔵文書、田中和子氏所蔵文書、座光寺久男氏史料、岩戸久義氏所蔵文書、松田初美氏所蔵文書、田中伍市氏関係史料、嶋岡和治氏所蔵文書

歴研ゼミ 6月・7月の予定

実践的に歴史研究の方法を学ぶ講座です。各ゼミでは随時受講生を受け入れています。

■時間 午後7時～8時40分
(各ゼミ共通)
■場所 歴史研究所2階研修室
(各ゼミ共通)



思想史ゼミ

—思想史から戦後を読み解く—

■開催日 6月2日・16日 7月7日・21日 (第1・第3水曜日)
■担当 池田勇太(研究員)

近世史ゼミ

■開催日 6月1日・15日 7月6日・20日 (第1・第3火曜日)
■担当 竹ノ内雅人(研究員)

近現代史ゼミ

■開催日 6月10日・24日 7月8日・22日 (第2・第4木曜日)
■担当 田中雅孝(調査研究員)

建築史ゼミ

■開催日 6月8日 7月13日 (第2火曜日)
■担当 金澤雄記(研究員)

6月・7月の催事スケジュール

6月		2010	7月	
火	NL46発行 近世史ゼミ	1	木	
水	思想史ゼミ	2	金	
木		3	土	アカデミア第58講座
金		4	日	
土	アカデミア第56講座	5	月	
日		6	火	近世史ゼミ
月		7	水	思想史ゼミ
火	建築史ゼミ	8	木	近現代史ゼミ
水	国際7-カブズ 記念講演会(都内)	9	金	
木	近現代史ゼミ	10	土	地域史惣寄合(姫路市)
金		11	日	
土		12	月	
日		13	火	建築史ゼミ
月		14	水	
火	近世史ゼミ	15	木	
水	思想史ゼミ	16	金	
木		17	土	
金		18	日	第9次南信濃調査
土	アカデミア第57講座	19	月	
日		20	火	近世史ゼミ
月		21	水	思想史ゼミ
火		22	木	近現代史ゼミ
水		23	金	
木	近現代史ゼミ	24	土	歴史学オリエンテーション
金		25	日	
土	定例研究会	26	月	たばこ総合研究センター助成報告会(都内)
日		27	火	
月		28	水	
火		29	木	
水		30	金	
		31	土	美博まつり
		8/1	日	

■ 開所日 ■ 休所日

開所時間 午前9時～午後5時

休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日～1月3日